



あれこれ



担当：酒田支部

★山形県建築士会女性部委員会では入会者募集中!★ お問合わせ：山形建築士会 ☎023-643-4568 <http://www.yamagata-ken.org>

東北ブロック会女性委員会「みやぎ大会」

H30.9.1~2

■ 全大会

村山支部 五十嵐 理恵

今年度の東北ブロック会女性委員会は、9月1日、仙台市東北大学片平キャンパスを会場に盛大に開催されました。

今回のテーマは「未来へつなぐたても ~まもり伝えていくものと新しい技術」ということで、いわばハードな視点から建物の保存を考えるものでした。

午前は、片平キャンパスの歴史的建造物見学。案内は東北大学特認教授、東北大学キャンパスデザイン室副室長の杉山丞(すずむ)先生です。杉山先生は、市内に分散する各キャンパスのマスタープラン作成とその実施監修に20年以上携わっておられ、今回の基調講演の講師でもいらっしゃいます。採用された様々な技術を解説していただき、新旧でありながらも一貫した時間の流れを肌で感じながら、広いキャンパスを巡りました。

建物の保存整備は、「1.オリジナルをそのまま保存活用する。」「2.リニューアルに耐えられない歴史的建物は中身を改築し、外壁のみ保存または再生する。」「3.新規の建物でも同じデザインコードで外壁を統一する。」の3つを基本としたそうです。その結果、「茶色のスクラッチタイルによる連続した柱型」が特徴的なシックな建物群となっていました。大樹の緑とレンガ様の外壁、そして塀を撤去しポケットパーク化されたゲートまわりなど、まさに「杜の都」の面目躍如といったところでしょうか。

午後、大会スタート。基調講演は杉山先生と、古民家の断熱気密修復の第一人者である安井妙子先生です。安井先生が事例とされたのは横手市の「国登録有形文化財平源旅館」の復活物語。雪対策、構造補強はもとより、高断熱高気密補強を当たり前を実現する設計姿勢は、雪国に暮らす私たちの大きな道標だなと思いました。

平源旅館がゲストハウスとして再生した後、近隣でも庭作りなど、まちとして修景を図る動きがでてきたとのこと。建物が建物単体ではなく、まちなみへ展開していく起点であり、私たちがその責任を背負っていることを改めて考えた大会でした。宮城県建築士会女性委員会の皆さん、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。



同じデザインコードで外壁を統一(茶色のスクラッチタイルによる連続した柱型)を採用したキャンパス内建物群



リニューアルに耐えられない歴史的建物は中身を改築し、外壁のみ保存したWPI-AIMR棟

■ 懇親会

鶴岡田川支部 小池 美佐

場所は、松島町松島 花ごころの湯 新富亭にて行われました。新富亭は松島でも高台の方に位置しており、震災の被害は免れたものの町民の被災者を受け入れ避難場所として長く提供されたそうです。従業員の方々が皆楽しそうに働いている姿が印象的でした。各ブロック参加者の紹介から、開催県の宮城ブロックのおもてなしの余興まで息つく間もない程に笑って(中には踊った方も)飲んで色々な話で盛り上がりました。余興は「すずめ踊り」と「ダンシングヒーロー」です。

通常のデジカメでは動きに追いつけませんでした。



朝食後、ホテルでの記念撮影を終え、塩竈神社駐車場へと移動。各県単位＋宮城県分散のグループに分かれてボランティアガイドさん付きのまちあるきでした。私たちはNPOみなとしほがまの大和田さんに案内していただきました。裏坂を下り、鹽竈海道を渡り「旧ゑびや旅館」へ。明治初期の木造三階の旅館建築で、震災後解体が決定されたそうですが、大和田さんたちのNPOと市民の募金で保存が実現。コミュニティカフェ、まちかど博物館に生まれ変わりました。3階は松・竹・梅・桜の意匠で統一され、2階は海にちなんだ装飾が施されています。



旧ゑびや旅館HPより～

次は高台にある「塩竈市杉村惇美術館」へ。ここでは館長さんが直々に説明してくださいました。塩竈石を使った公民館を改装して美術館になっており、奥には木骨編板構造の美しい大講堂がありました。スポーツをされたり、ここで結婚式を挙げる方々もいらっしゃるというお話でした。神社から下ってきた石段を上り、「旧亀井邸」へ。大正期にカメイ(株)の初代社長の別荘兼迎賓館として建てられた和洋併置式住宅でした。ここも解体が決まっていたがNPOの要望を受け入れ保存されたものでした。再び石段を下り上り「勝画楼」へ。通常非公開の建物でしたが、市の依頼で現在建物を調査されている宮城県の高橋さんが同行されるならと、許可をいただき外観だけでしたが見る事が出来ました。幕末に建造途中で放棄された燈明台の礎石は、もし完成していたら…と思うと圧巻の大きさでした。



塩竈市杉村惇美術館HPより～

またまた石段を下り、最終見学地の「丹六園」へ。江戸時代の建物の材を再使用した大正初期の町屋建築で、最近耐震補強がされたということでしたが、補強は建物の雰囲気や邪魔することなく存在感を消していました。

ここで皆さんとは解散となりました。時間があれば、まだまだ見ていただきたい建物はいっぱいあると大和田さんのお話でした。その後山形チームは昼ご飯を食べてからの解散ということで、地元民おすすめの寿司屋さんへ。特上から並、握り・ちらしとそれぞれ堪能し、お腹も脳みそも足もパンパンになって帰路につきました。

山形県建築士会 青年大会「鶴岡田川大会」

H30.11.3

■ 羽黒山 五重塔特別拝観

酒田支部 古川 美紀

11月3日(文化の日)に大会テーマ「地元の宝」と題して鶴岡グランドエルサンを会場に山形青年大会が行われ、参加して来ました。皆様の挨拶が終わり、今大会のメインイベント「羽黒山五重塔見学」のためマイクロバスへ乗り込みました。羽黒山五重塔は約150年ぶりとなる内部公開中。最上層の屋根を支える八角形の柱「心柱(しんばしら)」や、1階部分に設置された祭壇、平安時代の書家・小野道風の作と伝えられる額など「秘中の秘」とされた五重塔の内部が見られる絶好の機会といえるでしょう。そして開催日は残すところ2日。長蛇の列の最後尾に並び待つこと40分位。はじめて見る内部。どこにも触れずに立っている心柱。600年前の木造建築物の中を見て興奮が止まらない。時間を越えたような感じでした。そして参道から上がり出た時の景色…後光が際し神々しい美しい景色に出会えました。とても良い見学会でした。バスに乗り込み懇親会へ。湯田川温泉神楽や太鼓や仙台支部女性委員会有志のダンシングヒーローの余興が行われ大盛り上がりでした。他支部の青年委員会の方々との交流も取れ、とても有意義な時間を過ごせました。



女性部委員会発足以来、26回にも渡って続けてきたふるさと探検と秋期研修会に終止符を打ち、本年度から新たな活動として女性の建築フォーラムに移行することになりました。事業費の削減も主な理由の1つですが、見学したい場所を山形県内だけで選ぶのではなく、県外や海外へと視野を広める良い切っ掛けになるのではないのでしょうか。

■ 天童宿五日町のまちづくり 酒田支部 小山 恵子

2018年11月11日秋晴れの元、青森・秋田・岩手・宮城各県からも参加者を迎え男女44名で、天童市の五日町のまちづくりを地元の方の案内で見学させて頂きました。この五日町は県道の拡幅に併せて民間が主導し、使用する色や材料も自分達で取り決めて動き出しましたが、人々を纏める大変さは並大抵ではありません。計画が始まって四半世紀、声のかい人、有力者、自己中心者がいる中、素直に道路後退で家を建ててしまった人には立ち退き料が貰えないなど、裏話には事欠かない有様です。

それでも、この完成した街並みは美しく、蘇った現代の羽州街道、五日町の豊かな財産として人々の目に触れるでしょう。一度は訪れてみたい町になりました。



■ 常安寺の五重塔

酒田支部 小山 恵子

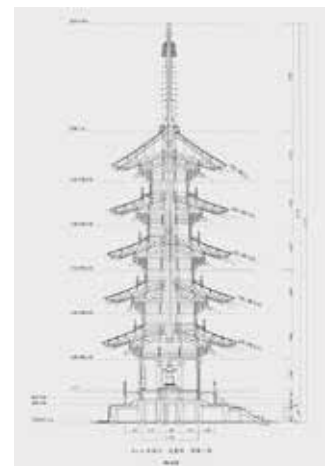
天童市五日町の通りを北に向かった辺りに常安寺はあり、今まさに五重塔建設の真っ最中でした。数日前のTVのローカルニュースで、芯柱を取り付け様子が流れたばかりで、逸る心を抑えながら境内の本堂へと向かいました。

今回の女性建築フォーラムの担当支部の山形・天童の方々は、案内板を持って誘導してくれるなど、細やかな心遣いは有り難く、揃いの黄緑色のジャンパーを見つけては安心しました。

11日午後からの五重塔の研修には、男性の建築士も多く加わりました。常安寺住職の五重塔に対する取り組みを伺い、建築には元請けを作らず材料から自分で集めるなど、その熱意を伝えて頂きました。

設計を担当された関氏には、五重塔の歴史から常安寺五重塔の特徴へと、殆どが県内の業者で施工している様子を伺いました。

実際に五重塔の見学しましたが、3層まで仕上げて芯柱を建てた状態で、冬期間は施工を休み、雪などで建物が傷まないように囲いなどに力を入れているようです。屋根の勾配は1-2層目と3-4層目、5層目で変えてあり、全体のバランスと美しく見せる為に必要だそうで、タルキのピッチも通常より1.5倍広く、材料も大きい寸法の物を使用してスッキリとした仕様になっています。足場や階段をぐるぐる廻って最上階へと移動しましたが、ご住職から「くれぐれも芯柱は撮してくれるな。」と念を押されました。芯柱はお釈迦様の舍利に結び付く大事な物のようです。馨しきヒノキの香りを胸一杯吸い込んだ見学は、なかなかの物でした。



■ キッズドーム ソライ

酒田支部 阿部 千晶

平成30年度 第二回女性部研修会に子連れで参加してきました。場所は、旬なキッズドームSORAIとスイデンテラス。SORAIの「アソビバ」は、全体が斜面になっているので、登ったり、転がったり、滑ったり子供達は思いっきり体を動かし遊ぶことができます。そのほか、クライミング、ロープ登り、ネット渡り等、様々な遊具が設置されて、大きい子向けの少し難しい遊具や、小さい子でもチャレンジできるネット登りコーナーもありました。自分で登れる子だけが挑戦できるように、足元からの高さが少し高く設計されているようでした。



遊び場の他に高さ3m、幅20mほどの棚いっぱいには工作やお絵かきのための素材が豊富にある「ツクルバ」というアトリエもあり、その日の気分で自分の好きな道具と材料を使ってものづくりができます。工具やミシン、グルーガンや手芸道具まであり、飽きさせない材料がぎっしり!!

時間ギリギリまで熱中して作っても、子供たちは時間が足りなさそうでした。



■ ショウナイホテル スイデンテラス 宿泊研修

酒田支部 金野 一枝

隣接するキッズドーム「ソライ」を堪能した一行は、テラスへと向かいました。

道路から見る二階建ての建物の壁面は、いちめんがガラス張り屋根はギザギザです。廻りにはプレハブ二階建ての様な建物が渡り廊下でつないである様子。アプローチに一步踏み入れ世界が一変しました。誘われるまま建物の中に入ると、巨大な集製材が目前斜めに表れました。「是は何だろうインパクト半端ない。」2階のフロントでチェックインしている間、周囲を見渡すと大空間が軽やかに広がっています。パーテーションや椅子などあちこちに紙管発見!瀟洒な渡り廊下を通り、予約していただいた三種類の客室でも細やかな拘りを見ることができました。客室の坪庭には、2016年発生の熊本地震により倒壊した家屋の瓦を、再利用した設えが見られます。夜にはライトが陰影を醸し出してくれます。日本人(私)はダイレクトより間接照明好きかもしれません。フィットネスルームで走っていると、目のレベルで窓の外には水田の景色が飛び込んできました。機会があれば、設計意図・意匠・構造・設備などのお話を伺いたいと思います。



エントランスまでのアプローチ



1階エントランスより



2階フロント



宿泊棟への渡り廊下

あとがき 2018年度「あれこれ」2号同時発行。事業報告の様になり皆様にお詫び申し上げます。また原稿依頼にご協力頂いた皆様にも感謝いたします。本当にありがとうございました。 酒田支部 古川 美紀